

＝会員さんの仕事紹介＝

「子どもたちを 学力だけで判断しない」

山田支部 渡辺塾 渡辺美介さん
山田西1・36・1 2022B ☎06・6816・8002

若いころは銀行マンとして働いていた渡辺さんですが、お父さんが引退されるのをきっかけに「渡辺塾」を引き継ぎました。渡辺さんの考え方の基本は「できる子どもできない子どもそもそもいない。教える側の問題であり、まずは教える側が努力すべきです。」とのこと。そして、渡辺塾には入塾テストはありません。子どもたちを入口で、学力だけで判断はしないと決めているからです。面接をして集団の中でやっつけていくのが大きな視点で、入塾を断ることはほとんどないそうです。できれば親ではなく、子どもが困って入塾を希望してくれることが理想だと言います。小学4年生から中学3年生までを対象に、アルバイトや非常勤講師は雇用せず、教育指導や進路指導など全てをこなします。

渡辺塾には、「〇〇高校〇名合格！」という張り紙はありません。名門校に合格してもらおうのが目標ではないからです。渡辺さんは今までも、名門校に合格できる実力があっても、その学校が生徒の自主性をどう育んでいるか、充実した学校生活を送れているか、挫折して卒業できなくなった子どもたちがいないかなどいろいろ考えて相談し、喜ばれた例がいくつもあつたと話します。

そんな渡辺さんもお父さんから引き継いだ当初は壁にもぶちあたりました。若いころは簡単なようですが「ダメなことなどをダメと言えなかった。」と。子どもは大人が考えている以上に敏感でよくわかっているといいます。ダメと言えなかった渡辺さんとは信頼関係がうまくいってうまくいかなかったそうです。しかし、真剣に向き合うこと、情熱をもちつづけたことで「その子のためにダメと言えるようになった。そして、真剣に叱ることもできるようになりました。ふり返ると単純ですが、子どもが好きかどうかは大変重要です。」と語ります。

民商に入会して一番良かったことは「身近に税金のことなどを相談でき、解決の方向性を一緒に考えてくれるところ。以前も一緒に交渉して解決できました。」と実感されています。渡辺さんのまわりには塾を卒業した子どもたちもよく遊びにやってきます。渡辺さんの思いが子どもたちに伝わっているようです。



参加してよかった

「みんなの思いが聞きたいです。」

千里丘支部 長野東班 班会

お昼のランチ営業を終えて上原さんがやってきました。先月、馬道さんと上原さんが同じ出身校だとわかって意気投合、お互いの名刺を店舗に置きあい、上原さんは馬道さんのお店の写真をとってフェイスブックにも載せています。

商工新聞4月18日付の経営プラス、商いカフェ異業種交流の記事を読み合わせしました。馬道さんは学生の頃から好み焼き屋さんでアルバイトをして卒業論文も好み焼きについて書いたそうでみんなもびっくりです。当時、好み焼きの嫌いな学生さんの声が「けむり、におい、べたついてるのが嫌」だったそうで、今でもそこには気を使っています。店内はすごく綺麗でべたつきもありません。子どもさん連れの家族にも気軽に楽しんでもらえるようにテーブルには鉄板がありません。

しかし、厨房の鉄板は特注品で厚みのあるふわふわのお好み焼きが出来ます。上原さんはお肉の仕入れルートを独自に開発して新鮮なものを安く提供できるのが強みです。ランチで通常の3倍のボリュームがある牛タンやハンバーグランチは自慢です。

工藤さんは幼稚園児の鞆をリュックサックのように背負うことで子どもたちを事故から守れると自分が開発した経路を紹介しました。馬道さんの奥さんが「子どもがほしいけれどお店と子育てとどうしたらいいか考えています。」とうちあけられ、上原さんが「僕のところは小学校低学年やけど、夕方にお迎えに行ってお店で宿題して、お店の手伝いも楽しいみたいでしてくれてるよ。」大変なのはわかっているけど、工藤さんも上原さんも「なんとかなるよ！」と励まし、奥さんも「あそこのカウンターにベビーコーナーでも作ろうかな」と前向きです。山田支部の後藤さんの話も出て、「班会に一度来てほしいね」との声も上がりました。お互いの商売の交流をした後、工藤さんが熊本の震災で民商がさっそく支援に動いていることや、全商連総会に向けて仲間づくりの「手形運動」を伝えました。上原さんも馬道さんもころよく手形を書いてくれました。募金もその場で4千円集まりました。工藤さん差し入れのピーチティーとおいしいパンをごちそうになりながらの楽しいひと時でした。



楽しいひと時でした。



商工新聞は経営のヒント・へららの知恵がいっぱい 毎週必ず届けましょう
会費集金は会員の心をあつめる活動です 毎月10日までには集めましょう